



おうちの方へ

愛知県感染症情報センターHP

愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課 HP より

“インフルエンザ警報”が発令されました！

愛知県では、平成26年第52週〔12月22日（月）から12月28日（日）まで〕における定点医療機関当たりのインフルエンザ患者の報告数が、国立感染症研究所が定める警報の指標である「30」を上回る地域（保健所単位）があったことから、平成27年1月6日（火）にインフルエンザ警報が発令されました。

なお、愛知県の今シーズンの流行型は、「A香港型」が確認されています。

<インフルエンザについて>

普通のかぜの多くは、のどの痛み、鼻水、くしゃみや咳などの症状が中心で、全身症状はあまりみられません。インフルエンザはそれらの症状のほかに、突然の38℃以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身の症状が現れます。

また、気管支炎や肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんや脳症などを併発して、重症化することもあるため、高齢者や小児では特に注意が必要です。

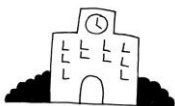
<予防・治療について>

- ・ 咳などの症状がある場合は、周りの人にうつさないために、マスクを着用するなど「咳エチケット」に心がけましょう。
- ・ 外出後には、せっけんで手洗いをしましょう。
- ・ 空気が乾燥すると感染しやすくなります。室内では加湿器等で適度な湿度を保ちましょう。
- ・ インフルエンザの流行期には、人混みへの外出を控えましょう。
- ・ 感染したときは、早めに医療機関を受診しましょう。安静にして休養をとり、水分を十分に補給しましょう。
- ・ 小児、未成年の患者では、急に走り出す、部屋から飛び出そうとする、ウロウロと徘徊する等の異常行動を起こすおそれがあるので、自宅で療養する場合は、少なくとも2日間、保護者等は小児、未成年者が一人にならないよう配慮しましょう。

学校においても感染予防にご協力ください

桜小学校では、かぜ・インフルエンザの流行期にはマスクの着用をお願いしています。お子さまに毎日持たせてください。

感染した場合は出席停止期間を守り（12月の保健だより参照）、回復と感染の拡大防止に努めてください。



吃音(きつおん)について

愛知学院大学心身科学部教授 古川博雄
名古屋市立大森小学校学校歯科医 鈴木俊夫

一般的に吃音は“どもり”と言われ、「発達性吃音」と「獲得性吃音」に大きく分けられます。発達性吃音が本来の吃音で、進展という特徴があります。他方、獲得性吃音は、脳の疾患に伴って発症した言語障害であり、“吃様症状”といい“吃音と似ているがちがうもの”と解釈してください。

吃音の定義は確立されていませんが、『音、音節の繰り返し（連発）や引き延ばし（進発）、構音の構え（難発・ブロック）、回避や阻止などからのものがき反応によって、会話の流れが妨害されたときに発生するもの』と言われています。吃音の問題は単に言葉が出てこないことだけでなく、そのことが学業的・職

業的・対人的適応に多くの困難を招いています。

<好発年齢> 2～7歳にどもり始め、98%が10歳までに発症。

<自然治癒率> よい時期と悪い時期を繰り返しているうちに症状がなくなるのは20～80%と言われ、幼少期が多い。

<吃音の特徴> 吃音の症状は進展し、個人差が非常に大きいため一概には言えないが、連発→進発→難発・ブロックの順番で進展していく。中高生の時期に問題が深刻化するケースが多い。

<訓練・指導法> 吃音の根本原因が不明のため、対症療法となる。訓練法は、心理療法、言語訓練法、薬物療法がある。会話症状、随伴症状、身体的過緊張、感情・情緒的反応を、それぞれに、または同時に改善しようとする意図で行われる。患者の年齢および進展段階をしっかりと把握し、個々の患者に合った訓練・指導法を採用する必要がある。

参考文献：健康教室 2014.12, P63-65, 東山書房